

# 周辺の

## 5 道明寺



土師氏の祖先や菅原道真を祭神とする。梅や桜の名所としても有名。(藤井寺市)

## 6 登録文化財 玉手橋



道明寺駅と玉手山公園を結ぶ吊橋。昭和3年、大阪鉄道により架橋された。

## 7 府史跡 安福寺横穴群



安福寺参道の両側に広がる6～7世紀に造られた墓。

## 8 市立 玉手山公園



明治41年開園の遊園地を平成11年に市立公園に。9～17時開園、水曜休園。

### 三. 大坂城落城へ

小松山を越えて石川を渡ってきた徳川方に対し、遅れて道明寺に到着した豊臣方の薄田兼相、明石全登らが迎え撃ちました。薄田は奮戦しますが、数に勝る徳川方に敗れ戦死。豊臣方は道明寺のさらに西の誉田に退きます。そこで合流した真田信繁、毛利勝永らが一時逆襲に転じたものの、八尾・若江での敗戦の知らせを聞いて、大坂に退却しました。この日の戦いで、有力武将や多数の兵を失った豊臣方には、家康の首だけを狙う策しか残されていませんでした。

翌7日の天王寺の戦いで、信繁が家康本陣に迫り一発逆転を狙うも叶わず。信繁が討ち取られると、大坂城内にまで攻め込まれ、翌8日に秀頼が自害し大坂の陣は幕を閉じました。

## 1 片山廃寺



7世紀末に創建された古代寺院跡。片山神社境内に塔の礎石が残る。

## 2 登録文化財 天理教北阪分教会



昭和13年頃、個人の住宅として建てられた。※一般公開はしていません。

## 3 玉手山古墳群



3世紀末～4世紀の古墳が、玉手山の尾根上にならぶ。(写真は1号墳)

## 4 安福寺



行基創建と伝わる名刹。再興を助けた徳川光友の廟所がある。

# 文化財

### 一. 大坂の陣のはじまり

関ヶ原の戦いの後、徳川家康は征夷大将軍になりましたが、豊臣秀頼こそが主君と考える大名も多く、また秀頼は神社などの修理や工事を行い、とても人気がありました。

その様子を不安に思っていた家康は、慶長19年(1614)10月、方広寺の鐘銘を口実に秀頼の居城・大坂城を攻めます。大坂冬の陣として知られるこの戦では、さすがの家康も堀がいくつも巡る大坂城を攻めきれず、真田信繁(幸村)らの活躍もあり、12月には和議が結ばれました。しかし、この和議により大坂城の堀は埋められてしまいます。

年が明けると、豊臣方は再び戦の準備を始め、裸同然の大坂城に籠るのではなく、若江や国分などで徳川方の大軍を迎え撃つ作戦にでます。そして、5月6日未明、豊臣対徳川の決戦・夏の陣が玉手山で幕を開けました。

寛政七年(一七九五)  
小林一茶  
雲折りに青葉見ゆ  
玉手山

発行  
柏原市立歴史資料館

- 入館無料
- 開館時間  
9:30～16:30
- 休館日  
月曜日(祝日は開館)  
年末年始  
(12月29日～1月3日)
- ☎ 072-976-3430

# 大坂夏の陣を歩くと

柏原

たまたまやま  
玉手山周辺

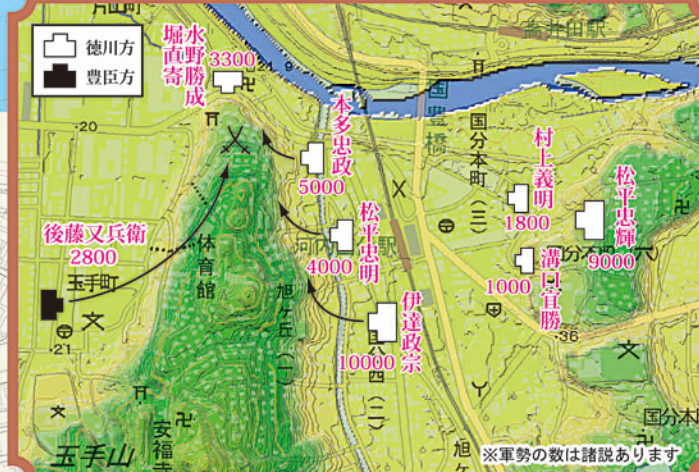


# 大坂夏の陣を歩く

柏原・玉手山周辺  
ウォーキングマップ



📍 墓碑 🚻 トイレ  
📖 夏の陣についての説明板



又兵衛の首は、部下の手によって片山付近の深田に埋められたという。昭和44年に建立。

サンヒル柏原

国史跡  
鳥坂寺跡

国史跡  
高井田横穴

JR  
高井田駅

片山  
テニスコート



松平忠明の家臣で、後藤勢と激突し討死。※個人の墓地のため見学できません。



家来5名の名と共に、「慶長二十年五月」の銘が刻まれる。



市立体育館建設を機に、昭和53年に建立。

片山神社

市立体育館

老人福祉センター

近鉄  
河内国分駅



江戸時代、安福寺を再興した河憶(かおく)上人が、戦死者を弔うために建立したと伝わる。



深手を負った又兵衛は自害し、部下の吉村武右衛門に介錯させたともいわれている。上：昭和44年、下：昭和54年建立。

重要文化財  
割竹形石棺蓋



兼相の子孫により明治18年に建立。羽曳野市指定文化財。



市民の有志により平成12年に植樹。



## 二. 小松山の戦い

慶長20年(1615)5月、徳川方は奈良方面から進軍します。その主力は、『独眼龍』と恐れられた仙台の伊達政宗たちでした。後藤又兵衛たちは政宗らを、生駒・金剛山地の地形を利用して食い止めようと考えます。

ところが、5月5日、徳川方は先手を取って国分に陣取りました。これを見た又兵衛は6日未明に急遽、片山を占領します。そして、早朝、決戦の火蓋は切って落とされました。

片山や玉手山で激戦となり、又兵衛は10倍近い徳川方を相手に奮戦しますが、致命傷を負い、自害します。徳川方も奥田三郎右衛門忠次や山田十郎兵衛などの戦死者を出しました。激戦地となった玉手山1号墳のあたりを小松山とも呼ぶことから、『小松山の戦い』と呼ばれています。

その舞台となった片山、玉手の村々は、豊臣方に焼き払われたとみられ、戦禍は民衆にも及んでいました。